

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 13 : 94 - 97
Issue Date	1988-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045152
Right	
Relation	



スナ ッ プ

泣きのスナッ

○わかつているけどとまらない涙

友人の家に遊びに行く。夜、私の買ってきたお菓子をしてくれる。小さいケーキセットで、二つづつ入っている。

哲平「ほくいちこのにする。」

良平「ほくもいちこの。」

智子「トモちゃんも、トモちゃんも、いちこの。」

良平「あんまりいちこのすきじゃないんだから、智ちゃんにやりなさい。」

良平「……………」(下を向いている)

へだつて、いつもおにいちちゃんにあげているでしよ。」

良平「きようは食べるもん。」

へじや、哲平、一番おにいちちゃんなんだから……………」

あげよ。智ちゃんに。」

哲平「いやだ。だつて、ほくすきだし、第一、一番先にとつたんだもん。」

へうん、じややつぱり良平だ。智ちゃんにあげよ。いいでしょ。ね。」

良平「……………いいよ。」

へよし、良平、えらいぞ。やつぱり智ちゃんより、おにいちちゃんだ。」

さつとおかあさんがケーキをもつていつてしまふ。そのとたん、良平が、ワーッと、なき出す。

へだつて、いいつていつたじやない。」

良平うなずきながらも、泣きやまない。

結局、三人は半分ずつケーキをわけることになった。わけたあとも、良平君の涙は、なかなか、とまらなかった。

——哲平(小二) 良平五才、智子三才——

(S.60・10・10)

○今ないたカラス

入学式から、三日目

へきようは、絵を書いてもらいます」

なかなか描かない子がいる。そしてついに出来ない。

へどうして、出さないの？」

「かたん、出したいくないから。」

へなんで？ きみだけよ。」

「なんでも……………いやなの。」

へ出しなさい。」と言うと、急に机の上につつぶして泣き出す。

へいいわ。あしたまでにかいてくるのよ。」

「うん。」

勢いよく立ちあがり、帰りぎわに、一言。

「先生、きつと、あしたわすれるよ。」

——一年男子(S.61・4・10)

○悲鳴

ノートを破って使っているので、私が怒って注意すると、下を向いている。

へなんでやぶるの？ だめよ。」

「……………」

となりのM子「この間もやぶっていたんだよ。先生が……」

生がいいって言ったつて。」

へ先生そんなこと言わないよ。」

はつと思ひ出した。二・三日前、大滝君が、ノートがなくなつてしまったから、あとすこしで、一年生もおわるから、前使っていたノートが、あまつているので、使つていいかと聞きに来たのだ。

そのときは、いいとは言つたが、やぶつて使うとは思つてもみなかった。前の使っていないノートを破り、今のノートのうしろにはついているのだ。

へアーそうか。先生、いいつていつたね。前のノート使つていいつて。思ひ出した。ごめんね。」

と言うと、今まで黙っていた大滝君が、

「ヒュー。」

と実になしように泣き出した。

——一年男子(S.62・3月)——

○ほくだけ。

公園で遊んでいる男の子三人。何かの拍子で一人がころんだ。

へ大丈夫？」

へ大丈夫？」

A君「へいきさ、だつてほくキズ前にもしたもん。」

と、古キズを見せる。

B君「ほくだつて、ころぶし、この前だつてナイフみたいで切っちゃつて、ほら、ここキズ。」

A君「ほんとうだ。ほくはこれ。」

B君「ほんとうだ。すげえ。」

C君「ワーン。」

キズのない男の子が泣きだす。

○わかつてないよ

大事にしているガーゼの湯あがりタオル。頭にまいて、女の子になつたりしている。オシッコをちびつてしまったので、急いで、近くにあつたそのガーゼのタオルでおしりをふいてあげると、大泣き。

智子「女の子が、女の子が……………」

へそんなこといつたつて。急なんだから、他にな

ス ナ ッ プ

かつたんだから、しかたないでしょ。
智子「おかあさんなんて、女の子じゃないから、わからないんだ。」

三才九ヶ月女子 (S.61・2・16)

○ばかにしないで

また、おもしろしをしてしまった智子、うにやうにや、言ってごまかしている。

「何、智子、いやだね。おしっこして。それチュウゴクゴカ」

と、おばあちゃんが笑うと、

「わらっちゃいやだ。おばあちゃん、わらっている。」

ピアノの影にかくれて、大泣き。

三才十ヶ月女子 (S.61・3・4)

○ほつといて

智子がひどく泣いている。色々話しかけても泣きやまず、さらにひどくなる。

「ないてんだから、はなさないで。」

三才五ヶ月女子 (S.60・9月)

○泣いているのをみて

その1

「ねえ、『ともちゃん、ミッキーマウスとおつかいに行っちゃうから。』っていったら、おかあさん、ないて。」

「うえーん」

「だって、しかたがないでしょうですわよ。」

「なんでなくのがいいの？」

「ないている方が、おもしろいもん。」

三才六ヶ月女子 (S.60・11月)

その2

テレビを見て、

智子「あつ、泣いている。あの人ないているねえ。」

おかあさん。」

「そうね。」

「おとななのねえ。」

三才六ヶ月女子 (S.60・10月)

その3

忘年会から帰ってきて、

智子「ねえ、あのかわいいスカートをきていた子は、なんていうの？」

「は、なんていうの？」

「ヤータンよ」

智子「ヤータン、智ちゃんがアツカンペーをしたら泣いちゃったんだよ。」

「はいじめちゃだめよ」

智子「はいじめてないよ。アツカンペーしているだけだよ。」

三才八ヶ月女子 (S.60・12・27)

「智子ちゃんの日々」

二才五才 (採集者の子でもある)

○保育園からの帰り道、車の中から外を見ていた

智子。

「お空、いないねえ。」

本当にその日はくもっていて青空が出ていなかった。

(二才五ヶ月)

○庭で沈丁花の花のおいをかいでいる。

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

「いいい、におい。」

(二才十一ヶ月)

○庭の葉が春一番でゆれている。

「あつ、風。おかあさん、風。風みようよ。ほら、風がみえるよ。」

(三才〇ヶ月)

○雨が降り、そのあと日ざしが庭にさしてきた。

「ね、おにわが、あたらしくなったよ。」

(三才二ヶ月)

○旅行に行ってトンネルに入ると大よろこび

「あな、あなだよ。」

(三才四ヶ月)

○デパートの呉服売場に七五三の着物を取りに行く。

「ね、おかあさん、ガイジンの女の子が着物きているよ。」

マネキン人形がみな七五三の着物をきている

(三才六ヶ月)

○「ねえ、ゆかりおねえちゃんのおばちゃんおぼえている？」

「おぼえているよ。だってわすれてないもん。」

(三才四ヶ月)

○おふろの中で

「タカユキ(四ヶ月)とトモちゃんはキョウタイでしょ。そんでなかま」

「おかあさんは？」

「おやこだから、なかまじゃない。」

(三才五ヶ月)

ス ナ ッ プ

○ピアノの前で品を作りながら、うたをうたっている。私がニヤ／＼とみていると

「だめ!! だめ!! 見ちゃ。トモちゃん、みせようとおもって、うたつてないんだから。」

(三才六ヶ月)

○「ねえ、おばあちゃんのおともだちって、みんなおばあちゃんだねえ。」

(三才七ヶ月)

○弟の隆幸の世話をしていると、そばによつてきて、小さい声で

「ねえ、おかあさん、お耳におはなししてよ。」

「ともちゃん、いい子だね。」って。」

(三才七ヶ月)

○ひもを見つめる。ヒゲにしたり、あたまにまいたりしてあそんでいるが、突然、走り出す。

「これ、はしりどうぐなの!! これをこうやらないとはしれないの!!」

ヒモを頭にまいて走りまわっている。

(三才七ヶ月)

○車で病院へ行く途中

「ね、車、みんなしらんぷりしているね。」

へなんで」

「だって、車とまっちゃっているもん。とまつて、しらんぷりしているよ。」

へじゃあ、うごいたら」

「うごいたら、わらっているよ。」

へしらんぷりして、何?」

「……………」

へなんだろう、おしえてよ」

「……………むずかしいな。」

(三才七ヶ月)

○お風呂からあがって、タオルをまいて智子の着がえをしていると、

「ねえ、おかあさん、おふろ、ついているよ。」肩についた水滴をさす。

(三才七ヶ月)

○デパートにお歳暮の注文をしに行った。テープルにすわり、注文表に名前をかいていると、

「ねえ、よやくして早くかえろうよ。」

(三才七ヶ月)

○おはかまいりに行って、智子と一緒におはかをそうじしている。

「ここ、おじいちゃんいるの?」

へそうよ」

「この中にいるの?」

へそうよ。だからきれいにしているの。」

「ねえ、おかあさんはこの中にいないの?」

へいないわよ。ここにいないでしょ」

「おばあちゃん?」

へおばあちゃんも、いないわよ。車の中で赤ちゃんといるでしょ。」

「フーン、じゃ、おじいちゃんだけいるのか。ここ、おじいちゃんのうちなんだね。」

(三才七ヶ月)

○このごろ写真等をとるとき、智ちゃん笑つて、というと、目がなくなるような顔で、ギューーと顔をゆがめて、わらう。作りわらいである。

へともちゃん、作りわらいしないで」

「じゃ、『ともちゃん、わらって』って、いわないで。」

(三才七ヶ月)

○タオルをあたまにかぶり、

「おかみさん／＼。」

と言っている。私たちが、

へおかみさん」

というと、さつとタオルを取って、

「ともちゃんになつちやつた。」

へおかみさんは?」

「おわつちやつた。」

(三才七ヶ月)

○コンニャクをいやがって食べない。

「これ、なまじっていうの。」

へコンニャクよ」

「だから、コンニャクは、なまじなの。なまじは、まずいこと。」

へじゃ、まずいっていえば?」

「まずいじゃなくって、なまじなの。」

(三才八ヶ月)

○祖母が

へたかゆき(七ヶ月)は、きかんぼう」

というと、すかさず、

「赤んぼうだよ。」

(三才八ヶ月)

○湯本の駅に着いて、ハイヤーに乗る。案内の人が、

へどちらまで?」

「おんせんまでだよ。」

(三才九ヶ月)

スナ ッ プ

○遊園地で、おもちゃの犬が、ワンワン走っている。ワン／＼と言いながら走るのだが、その音が、かすれた音である。

「ねえ、おかあさん、あのワンちゃん、ゼンソクだね。」
(三才九ヶ月)

○夜ねながらウンチをしてしまった。

「あら／＼まあ／＼」
「ともちゃん、ウンチ、うんじやったの。」
(三才九ヶ月)

○「ともちゃんのおへや、三月がいつぱいあるよ。おひなさま出すと、三月がいつぱいだよ。」

(三才九ヶ月)

○風花が舞い出して、葉の上に雪がうつすらつもり出したのを見て、

「ゆきが、はっぱの上にとまっているよ。」
(三才九ヶ月)

○朝、一階におりてくるとき、いつもよんでいる三冊の本を持たずに来る。

思い出したように、

「あー、ともちゃん、そのつもりだったのに。」
「何のつもり？」

「ご本、もっておりてくるつもりだったのに、こまるでしょ。」
(三才九ヶ月)

○出先で

「へそろそろ失礼しましょうか。」

と私が言うと、しばらくしてあきた智子が、
「ねえ、ともちゃん、失礼したいよ。」

(三才十一ヶ月)

○いとこの秀ちゃん、京子ちゃん、まきちゃんが、遊びに来てくれた。智子は朝から興奮気味。

みんなの姿をみると、
「ほんとうって、ほんとうのことなのねえ。」
(四才三ヶ月)

○「おかあさん、あんたっていわないで、ともちゃんのこと、あたしっていつて。」
(四才一ヶ月)

○「ねえ、ともちゃんはむかし、どろんこ遊びをしていて、くちや／＼になっちゃったんだね。」
「きのうね」

「だから、きのうっていったら、むかしでしょうに。」
(四才一ヶ月)

○公園で遊んでいて、くさりにつながれている犬が、おばあさんと一緒に帰るとき、おばあさんにじゃれついた。

「あの犬、バカついていつちゃう。」

「どうして？」

「だって、あの犬、おばあちゃんに甘えてんだもの。」
(四才四ヶ月)

○へともちゃん、タカちゃんにもちや返してないじゃない」

しばらく横を向いていて、

「ともちゃん、うそついているんだから、もう言わないで。」
(四才九ヶ月)

○おばあちゃんと私とで最近なくなったおじさんの話をしている。

私へあの人がなくなってしまうと、本当に明治生れがなくなっちゃったってかんじだねえ。」

おばあちゃんへ明治は遠くなりにつりだねえ。」
「チョコレートはメイジ!!」
(四才十一ヶ月)

○隆幸が、おねえちゃん／＼と言う。

「おねえちゃんじゃないでしょ。わたし、おねえちゃんていわれるのやなんだから。」
「どうして？」

「おねえちゃんていわれるとき、そんなんだもん。」
(五才二ヶ月)

○買い物の帰り智子と二人で喫茶店に入った。

「へね、このこと、おばあちゃんとタカちゃんにはないしょにしておこうね。おかあさんともちゃんのひみつよ」
「ひみつか……いいよ。」

家に帰って玄関に入ったらとたん、

「おばあちゃん、ともちゃん、おばあちゃんが、まっているのに、おかあさんに、すてきなところおしえてあげて、氷たべてきちゃった。おかあさんはコーヒーだったよ。それでひみつにしておくことにしたんだよ。わかった。おばあちゃん。」
(五才三ヶ月)

採集者 成瀬台小学校教諭 中川節子